

バウハウスに関する論考 その3 バウハウスとル・コルビュジェにおける対称性の相克

正会員 加藤道夫*

ル・コルビュジェ バウハウス スタイン邸
デッサウ校舎 透明性 対称性

1. はじめに

本稿は、昨年報告した「バウハウス研究3 ヴァイマル時代のバウハウスとル・コルビュジェ」に続く、バウハウスとル・コルビュジェの比較研究の続編である。前稿では、ヴァイマル時代のバウハウスと同時期のル・コルビュジェを『レスプリ・ヌーヴォー』誌を参照しつつ、機械と反機械という観点から再考した。

本稿では、両者の建築構成法の差異に着目する。そのために、コーリン・ロウとロバート・スラツキーの共著論文「透明性 虚と実」¹⁾において「実」の透明性の実例と「虚」の透明性の実例とされたヴァルター・グロピウス設計の《バウハウスのデッサウ校舎》(1926) (以下《デッサウ校舎》と略記) とル・コルビュジェ設計の《スタイン邸》(1927) を対象に、対称性と視線の貫通の観点から比較分析を行った。そして、《シュタイン邸》の写真群に内在する空間連鎖の発見を通じて、それが「虚」の透明性の視覚的例証であることを明らかにしたい。

分析にあたって『アルシテクチュール・ヴィヴァント』誌(以下「AV 誌」と略記)に掲載された写真群を参照した²⁾。なぜなら同論文に掲載された両建物の写真はここから再録されたものと考えられ、特に《スタイン邸》の写真群は竣工当時の詳細な情報を提供するからである。

2. 《デッサウ校舎》における対称性

2.1. AV 誌に掲載された写真群

《デッサウ校舎》の写真群は、複数の号にまたがって計4枚のプレートに掲載されている。1927年春号 pl. 3 (外観, 内観各1枚), pl. 4 (外観4枚), 1927年冬号 pl. 36右 (外観1枚), 1929年秋号 pl. 9 (外観3枚)。正面視の写真は存在しない。同校舎をテキストでも紹介する1927年春号では、5枚からなる外観写真群によって、複数の棟からなる同校舎の全体像を示そうと試みている。1927年冬号に掲載された工房棟手前から斜めに眺めた写真では、工房棟のガラス越しに管理棟が透けて見える。同校舎の非対称の構成、「実」の透明性を示す写真として《デッサウ校舎》のアイコンとなり、ジークフリート・ギーディオンの『時間 空間 建築』³⁾にも掲載された。1929年秋号の写真群はアトリエ棟を紹介するものであるが、同校舎の各棟の平面計画に内在する対称性(アトリエ棟の妻面と入り口)の存在を垣間見せている。



図1 AV 誌に掲載された《デッサウ校舎》の写真群

2.2. 対称性をめぐる棟配置と内部構成の相克

AV 誌にはガラス越しの実の透明性を示す管理棟の廊下(27年春 pl. 3 下)を除いて内部写真が掲載されていない。しかし、柱梁が生み出す門型フレームの露出など内部の局所的構成には対称性が各所に散見される。とりわけ、ピロティ下の主入口から少し上がったホールを経て上階に至る空間連鎖は、左右対称の大階段を伴う強い対称性を示している。また、アトリエ棟は中廊下式の対称性を伴った平面計画であるだけでなく、1階入口周辺の外観も対称性を示している。要約するならデッサウ校舎は大域的な棟配置においては対称性を回避しつつも、局所的な外観と内観デザインや内部の空間連鎖においては各所に対称性を保持していることがわかる。

3. 《スタイン邸》における対称性

3.1. AV 誌に掲載された写真群

AV 誌 1929年春号²⁾は《スタイン邸》を中心に編集されている。25枚のプレートの内1から22までが、同邸の竣工直後の20枚の写真に加えて、5枚の建設中の写真、2枚の外観軸測図から構成されている。同誌に掲載された竣工写真20枚は以下の通りである。正面外観写真が5枚、建物内写真10枚(屋上1枚を含む)、裏面外観写真5枚(空中庭園下部を含む)。

3.2. 対称性をめぐるファサードと内部構成の相克

同誌には、正面外観で3面(pl. 1, pl. 2 上下)、裏面外観で2面(pl. 16, 22)のほぼ正面視の写真が存在する。前者は細部に対称性の破綻が見られるものの、大域的な対称性を示している。対して後者や内部の写真は、一部に局所的な対称性を示唆する写真が存在するものの、ほとんどが非対称の構成を示している。以上の特性を要約するなら、正面における大域的な対称性に対する裏面および内部における非対称性の共存といえるだろう。



図2 AV誌に掲載された《スタイン邸》の写真群

4. AV誌の写真群に見る《スタイン邸》の空間連鎖

冒頭の pl. 1 (以下「pl.」省略) から 4 はアプローチにおける視軸の転換を示している。1 は管理人棟キャノピーの中心軸越しに正面立面を捉え、ABABA という柱割による大域的な対称軸の存在を顕在化している。続く 2 では、遠景 (2 下) において大域的な対称性を保持しつつ、近景 (2 上) で対称性が局所的に破綻していること (キャノピーの非対称) を示している。また、2 下の視点は門扉からサービス入口へと直進する通路の延長上にあり、ABABA における左の ABA という局所的な対称性の存在を顕在化する。続く 3 から 4 で視線は回転し、主入口が左の ABA から右の ABA の対称軸上に転換されることを示している。

キャノピーを側面視する 5 を挟んで (6 は建設中の写真)、7 から 14 は (屋上を含む) 建物内で展開する複雑な空間連鎖を示している。7 上で視線は右に回転する。2 本の柱によりフレーミングされ中心に階段を据えた正面視の構図は、層状空間に沿って局所的な対称性が埋め込まれていることを示唆している。階段を上がって視線は折り返され、8 下では視線が層状空間に沿うのに対して、8 上では視線が層状空間を横断し、居間に埋め込まれた局所的な対称性を示唆している (ABABA の中間の BAB に相当)。続く 9 上は、階段の上がり端から斜め方向に居間を眺め、先行する 8 の上下間での視線の転換を補間する。残りの (9 下の 1 階駐車場と 10 の建設中の写真を挟んだ) 11 から 14 はほぼ正面視の構図をとる。一方で視線は層状空間を横断し (12, 13)、他方でブリッジや手すりに導かれて層状空間に沿って進展する (11, 14)。それらは、層状空間に局所的な 2 方向性が埋め込まれていることを示唆しているといえるだろう。

15 の軸測図を挟んだ 16 以降は建物裏面の外観である。17-18 の建設中の写真と 19 の空中庭園下部を挟んで、階段を降り (20)、徐々に向きを変えつつ (21)、建物から離れて背面からの遠望の正面視 (22) に至る。22 では散策路に沿った背面における ABA という局所的な対称軸の存在が顕在化されている。

以上要約するなら、AV誌の写真群は、層状空間を局所的に横断あるいは沿う正面視をキーイメージとし、斜め方向 (方向転換を示唆) の写真で補間しつつ、全体として一つの空間連鎖として視覚化するといえるだろう。

5. 《スタイン邸》と《デッサウ校舎》における対称軸の反転

本稿の比較分析で得られた結果を要約するなら、以下のようなになる。

《デッサウ校舎》では、外部において視線の貫通を伴う非対称なブロック構成をとりつつも、内部においては一部に局所的に対称性が保持されている。

対して《スタイン邸》は、正面外観において大域的な対称性と局所的な対称性の破綻が併存する。裏面では大域的に非対称の構成をとりつつ局所的な対称性が埋め込まれる。内部では視線の局所的横断を伴って、層状空間を縫うように横断する複雑な空間連鎖を生み出している。

ロウ等の (「実 (文字通り)」の透明性と分別された) 「虚の透明性」は、2 次元の絵画空間の解釈を拡張して 3 次元の建築空間に適用し、「浅い空間」の重なり、あるいはベルナルド・ホースリが図式化したように複数のレイヤー^{4), 5)} として捉え、その間に生じる複雑な視覚的関係を記述可能にする説明概念である。対して、本稿は「虚の透明性」とされる視覚的関係を、写真という具体的な視覚イメージを媒介に読みとくものである。本稿で明らかにされた層状空間を縫うように展開する空間連鎖は、《スタイン邸》が、ABABA という平面構成に埋め込まれた対称性と密接に関連しつつ、(建築的プロムナード) 具現化していることを示している。

参考文献

1. Rowe, C., *The Mathematics of the Ideal Villa and Other Essays*, The MIT Press, 1976. 邦訳 コーリン・ロウ (伊東豊雄+松永安光訳) 『マニエリスムと近代建築』, 彰国社, 1981.
2. Badvici, J. ed., *L'architecture vivante*, printemps, 1929 (republishation: *L'architecture vivante*, 4vols, Trewin Copplesstone Publishing LTD, London, 1975).
3. ギーディオン, S., 『空間 時間 建築 2』, 丸善株式会社, 1969.
4. Hoesli, B., « Commentaire », in Rowe, C. et Slutzky, R., *Transparence Réelle et virtuelle*, Les Éditions du Demi-Cercle, 1992, 79-84.
5. Hoesli, B., « Exemples remarquables », in Rowe, C. et Slutzky, R., *Transparence Réelle et virtuelle*, Les Éditions du Demi-Cercle, 1992, 85-118.

*東京大学名誉教授, 東京理科大学客員教授

*Emeritus Professor, The University of Tokyo, Visiting Professor, Tokyo University of Science